



WEEKLY NEWS 【26回】



国際ロータリー第 2640 地区

通算 2382 回

和歌山東南ロータリークラブ 週報

会長: 鯨坂恒夫 幹事: 楠見珠緒 会報委員長: 神谷尚孝

2020-2021 年度

事務局 E-Mail: rotary@wakayama-serc.org http://wakayama-serc.org/

例会日 水曜日 例会場: ルミエル華月殿 第1, 第2, 18:30~(夜) 第3, 第4, 第5, 12:30~(昼)

本日の例会
3月3日(水)
18:30~華月殿

- ・開会点鐘 鯨坂会長 ・ロータリング 君が代、我ら和歌山東南ロータリー、バーゲイキング
- ・出席報告(例会委員会) ・ニコニコ箱(寄付金)報告 ・委員会報告
- ・行事 IDM発表③ ロータリー情報・規定委員会 ・閉会点鐘 鯨坂会長

先週例会報告 会場監督 坂本武司

ゲスト・ビジターはございません。

《 会長挨拶 》 鯨坂恒夫会長

本日は卓話をさせていただきますので、後ほどあらためてお話をいたします。
今現在から近未来にかけて、かつてなかったほどの大きな変化が進行しており、
絶妙のタイミングでコロナがそれに拍車をかけているという議論をします。
キーワードは、地球温暖化とデジタル化です。



《 幹事報告 》 楠見珠緒幹事

- ① 1 件事務局に届いていますので、各テーブルに一部置いています。ご一読頂き、御入用の方はお持ち帰り下さい。
・地区より 米山記念奨学生世話クラブ決定について。
- ② 創立 50 周年記念ゴルフコンペ 3月20日(土・祝) 国木原ゴルフ倶楽部 和歌山南 RC、和歌山北 RC、和歌山中 RC、和歌山アゼリア RC より申し込み頂き、当クラブを含め 42 名の参加となっております。
- ③ 2月28日(日)のローターアクト地区献血活動は中止とのお知らせが届いております。なお、日本赤十字としての献血活動は実施されますので、献血にご協力いただけます方は当日会場へお越しくだしますよう よろしくお申し込み申し上げます。



本日の出席報告				寄付金	ニコニコ	米山記念奨学会	ロータリー財団	東南育英会	50周年記念BOX
会員総数	40名	出席者	出席率						
出席免除会員	4名	2/24	25名	69.44%	累計	1,307,780	235,000	11,000	425,000

《ニコニコ箱報告》 松田敏明会計

鯨坂君：卓話、よろしくお付き合いください。

鯨君：コロナこわい…

坂本君：早くあたたかくなってほしいです。

溝落君：東南会ゴルフで少し、おいしい事がありました。

山口君：ぬくなりました！

市川君：第7回東南会コンペ優勝できました。HCのおかげ、5年振りです。

土屋君：のっぴきならない事情で欠席、失礼いたします。

松田君：寄付金10名超27週連続、ありがとうございます。



《50周年記念BOX》

吉田君：50周年上手くやりたいですね。

松田君：ゴルフ同好会 いぶすき合宿企画、現在様子見中です。

「委員会報告」 50周年委員会 太田豊隆委員長



創立50周年記念式典開催実施についての最終お伺いを皆様におはかりした件で、ご意見を頂き深く反省しています。コロナが終息していない中での開催には大変問題もあるかと思いますが、参加に際しては乗り物の密度、会食の場の三密に対する対応等、いろいろご意見をいただき、ありがとうございました。アンケートについては理事会で審議いただきたいと存じます。

会長卓話「近未来の展開について」 鯨坂 恒夫会長

50周年記念式典に関する検討が白熱しましたので、卓話はキャンセルとなりました。準備してあったスライドを掲載しますので、ご覧ください。もし機会があるようでしたら、いずれまたお話をさせていただきます。

今現在…実はかつてなかったほどの大きな変化が進行中 ←コロナがそれを加速 絶妙のタイミング

【1】地球温暖化…ついに尻に火がついた

【2】デジタル化…実は人工知能の進出が影響大

温室効果ガス

効果は+33度（太陽だけだと平均気温は -19° C）

寄与率：水蒸気5割、雲2割、二酸化炭素2割 メタンその他1割

空気中の二酸化炭素濃度は 0.04%（400ppm） 1985年：350ppm 産業革命以前：280ppm

エンジン自動車が終わる

蒸気機関（外燃機関）

排水ポンプ(1712) 外輪船(1807) スクリュー船(1840) 蒸気機関車(1825)

エンジン（内燃機関） ダイムラーのエンジン(1883) ディーゼル・エンジン(1893)

モーター(1830) 鉄道電化(1880)

飛行機に乗ることが「かっこわるい」

ライト兄弟初飛行(自作ガソリンエンジン, 1903)

第一次世界大戦で戦闘機、第二次世界大戦末期にジェットエンジン

超音速旅客機コンコルド

初飛行(1969) 定期運行開始(BA, AF, 1976) 離陸時大事故(2000) 最終飛行(2003)

環境負荷・コストが見合わない新技術の撤退

「移動」の総量は減るのか？

「社交する人間」に移動は必須？ 地元の祭りも社交
旅行は必須？ 熊野詣でやお伊勢参りは一生に一回だった
「現場」のある仕事以外、移動（通勤）は不要？

学校（通学）の場合、現場とは実験・実習など インフォーマルな会話には「集まり」が必要

DX（デジタルトランスフォーメーション）

コンピュータ ← 第二次世大戦期のミサイル弾道計算

1960年代にIBMが民生化

その後、性能向上は100万倍以上

100万倍…30秒 対 1年, 1cm 対 10km

パソコンやスマホを時々「使う」, のではなく 行動のあらゆる局面にコンピュータ&ネットワーク
作業の自動化→判断・決定の自動化

例えば、需要予測による自動発注

人工知能・ロボット

人間と共生するよう見えるが,,

データ（の値）だけをふるい分けて結果を出す ⇨ 人間は数値の塊を見ても何もわからない
言葉がわかるよう見えるが,, 人間がするような意味の理解はしていない

人間の仕事の多くを機械がするようになるのか？

「サービス」の本質は人間対人間では？

「人間疎外」の回避を「モダンタイムス」のときと同じように真剣に考えないとはいけません

第7回 東南会ゴルフコンペ

2021年2月6日(土)

南紀白浜ゴルフ倶楽部



優勝 市川正夫会員

2位 溝落和作会員

3位 中岡隆文会員



「コロナワクチン接種の取り組みをロータリーが支援」

MY ROTARY ニュース・特集記事 01-Feb-2021 記事 Ryan Hyland

世界各地のロータリークラブは、地元での新型コロナワクチンの導入と配布を支援しています。コロナワクチン接種をロータリーがいかに支援できるかを地元保健機関と協議するよう、ロータリーのリーダーは会員に強く呼びかけています。ロータリーは、ポリオワクチンの配布とその効果に関する啓発を通じてポリオを根絶間近としてきた長年の経験があります。その豊かな経験と知識、そして戦略的なパートナーシップと革新を、コロナウイルスから地域社会を守るために生かすことができます。

保健当局をバックアップ

国際ロータリーのホルガー・クナーク会長とロータリー財団の K.R.ラビンドラン管理委員長は、さまざまなレベルで行動を起こすことをロータリー会員に呼びかけました。これに即座に応えたのが、ノースカロライナ州のロータリー会員でした。会員らは保健当局に援助を申し出たほか、地区リーダーが州の保健・福祉局に連絡し、ロータリーとしての支援方法を協議しました。さらに、ノースカロライナ州の 6 人のガバナーが、州の保健局と共に同州のロータリー会員 12,200 人以上を対象としたウェビナーを実施。入手可能なコロナワクチンとその配布方法について情報を提供し、会員からの質問に答えました。ウェビナーに出席した会員は、地域社会で模範を示し、ワクチンへの信頼構築にあたることができます。

「リーダーであるロータリアンは、人びとを導くことが求められます。ですから、十分な情報を学び、保健当局と協力する機会をもつことが大切です」と話すのは、ロータリー第 7730 地区(米国ノースカロライナ州)のガバナー、ドーン・ロッチェルさんです。会員たちは、州内各地のワクチン接種会場でボランティアにあたり、データ入力、誘導、登録手続きなどを手伝いました。会員はまた、保健従事者やボランティアに食事と飲み物を差し入れました。これに加え、地区は、同州の 100 の郡を代表するロータリー会員の連絡先を収めたリストを州保健当局に提供しました。同地区のバスターガバナーであるナンシー・バービーさんとロッチェルさんは以前、インドでの全国予防接種日にボランティアとして一緒に参加しました。ポリオの一斉予防接種を手伝った経験が、コロナワクチン接種における具体的なニーズを知るのに役立ちました。

「ポリオ根絶の取り組みを通じて、どの地域社会にも適用できる方策を学ぶことができた」と、インドで 2 回のポリオ予防接種活動に参加したロッチェルさんは話します。「インドでも米国でも、予防接種は政府主導で行われます。しかし、成功に不可欠なのはロータリアンによるサポートです。私たちは、最前線の保健従事者をバックアップできます。ノースカロライナのロータリアンたちによる取り組みは、本当に素晴らしいと思います」

クラブに指針を提供する新しい合同タスクフォース

国際ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、12 月の会合で、今後のコロナワクチンの配布と接種の呼びかけにおいて指針を提供する合同タスクフォースを設置しました。新たに結成されたこのグループは、ワクチンに対する理解と受け入れを促すための情報をシェアし、コロナウイルスの感染拡大を食い止めるための活動(ソーシャルディスタンス、マスク着用、頻繁な手洗いの促進など)を奨励していきます。

地区リーダーに宛てた合同メッセージの中で、クナーク会長とラビンドラン管理委員長は、「ロータリー会員はこれまで、数百件のグローバル補助金とプロジェクトを通じて、コロナウイルスに関する啓発、重要な防護具の寄贈、前線で闘う医療従事者への支援を行ってきた」と述べ、ニーズを抱える人たちをロータリー会員たちが支援してきた歴史に触れました。

また、ワクチンへの抵抗に対して行動を起こすことの重要性を次のように訴えました。「ワクチンへの強い抵抗や誤解が広がりつつありますが、これに立ち向かうために皆さまの力をお貸しください。各地で啓発を行うことが極めて重要です。命を救うワクチンの力について、メッセージを広げる必要があります」

クラブは、地域社会での啓発活動、ワクチンの平等な配布、感染拡大の阻止、大規模なワクチン接種を準備する地元保健当局の援助など、さまざまな方法で地元でのコロナワクチンの導入と配布を支援できます。

ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動(GPEI)のパートナー団体が築いたインフラは、既に新型コロナウィルスとの闘いにも活用されています。GPEI は最近、コロナワクチン接種開始に向けたサポートを行う準備が整っていることを発表しました。

地元の「予防接種の日」にコロナワクチンの 1 回目の接種を受けた
トレントン・ロータリークラブ(米国ノースカロライナ州)
会長のジョン・ホールさん。

写真提供: Dawn Rochelle

